

青少年を対象とした支援事業の取り組みに関する研究

大西 美穂 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード: 義援金, 補助金事業, 心身の保養

1. 序論

2011年3月11日東北地方太平洋沖で地震が発生し、中でも福島県は原子力発電所が被害を受け、放射能による環境汚染が問題視された。放射能の影響が大きく、満足に生活する事が難しくなり、心身の健康や免疫力が低下し、震災以降3年が経過するが依然として自然に対して恐怖心を抱いている子どもが多くいる。震災以降、数多くの人達が義援金を募り、被災地復興に尽力を尽くしている。また、海外からも福島県の子どもに対して心身の保養を目的とした活動への支援が行われている。

本研究では、身体や心に問題を抱える福島県の子どもを対象に補助金事業として実施される事業に着目し、そこで支援される内容や運営方法、問題点などを明らかにすることで、今後も継続してこのような補助金事業が展開される為の基礎資料の作成を目的とする。

2. 研究方法

【調査対象】 沖縄国際ユースホステルが主催する青少年支援事業の主催者2名(男性1名, 女性1名)に現地でインタビューを実施した。(以後, 男性は回答者A, 女性は回答者Bとする)回答者2名は、沖縄国際ユースホステルの管理, 運営を行っている。

【調査内容】 調査時期は2014年11月14日~20日までの計7日間であり、その間に資料の整理とインタビューを行った。

また、インタビューの内容は、Hilfe fuer Japan(ドルトムント独日協会)からの支援, 目的, 運営状況, 子ども達の様子, 問題, 課題を聞き, 主催者にインタビューを行った。

3. 結果と考察

1) 沖縄支援事業における現状

震災以降3年余りが経過し、ドイツからの義援金に影響が表れ始めた。子ども達は無料で参加する事が可能だったが2013年以降参加費を自己負担にするようになった。ドイツの義援金だけで支援事業を維持する事は難しい現状がある。支援の中、子ども達への配慮は多く行われていた。特徴的なのは、身体に問題を抱えた子どもでも参加可能であるという事や、子ども達の食事に対する配慮だった。

[リピーター]に対して2つの意見があり、広く色々な子どもを受け入れた方が良いという意見と、継続的に参加した方が良いという意見である。2つ目の意見は、実際に実験でデータが挙がっている事から継続的に参加する事は、体内の放射線量を下げる効果があると思われる。

[スタッフ]は、毎年人手不足の傾向があり、大勢の子ども達で活動する事が難しいと思われる。スタッフが少ない事により、子ども達の安全管理が

疎かになってしまう危険性がある為、活動を増やす事が出来ないという現状がある。

2) 沖縄支援事業の今後の課題

[資金面]については、ドイツからの義援金は年々減っている傾向にある為、現在使用している宿泊施設よりも低価格で約100人の子ども達が自由なく過ごせる施設を探す必要がある。また、支援活動の情報を拡散させる事により、色々な場所から福島県の子ども達に対して資金提供をもらう事が重要であると思われる。

[宣伝活動]は、多くの子ども達や支援関係者に知って貰う為今後、ポスター等の掲示を行う事や、福島県で行われる事業説明会の回数を増やし、多くの人に足を運んでもらう必要がある。

[活動場所・頻度]は、放射能のない沖縄県の自然の中で、子ども達に活動してもらう事は体内の放射線量を下げる効果があり、子ども達の心身の保養に繋がる事から、野外活動の頻度を増やすことが必要だと考える。

[スタッフの構成]について、スタッフの人数は年々減っている傾向にある為、子ども達の安全管理の面からも、野外活動を行うにはスタッフの人数は必要不可欠である。参加者同様にポスターやインターネットでの掲載を行い、支援活動の事を知って貰う必要がある。

4. まとめ

多くの子どもを受け入れる環境が必要であり、安価である事や心と体がリフレッシュ出来る自然環境が整っている事が条件として挙げられる。

継続して支援事業を行う為には、スタッフの確保が重要であり、専門的な立場に立ったスタッフをはじめ、ボランティアで活動が出来る人材の確保が望ましい。また、スタッフの質を高める為に、研修を行う事も必要だと考えられる。

参加する子どもについて、見解は異なる。1つは、一人でも多くの子どもが参加できる状況を作る事。もう1つは、心身の保養を目的とする事から、継続して参加できる状況を作る事である。

引用・参考文献

沖縄ユース:

<https://www.facebook.com/okinawataiken>(2015/01/15 アクセス)

黒澤 毅(2011):長期宿泊支援プロジェクトが被災地の子どもの自然観に与える影響

黒澤 毅(2011):Hilfe fuer Japan 義援金補助事業 2011 夏休み青少年支援プロジェクト事後報告 福島子どもプロジェクト:公益財団法人 東日本大震災復興支援財団

<http://minnade-ganbaro.jp/katsudou/project/fkp/>(2015/01/15 アクセス)